



第4回 日韓沿岸防災 技術研究ワークショップ

(The 4th CDIT - KIOST Joint Workshop)

一般財団法人 沿岸技術研究センター
調査部 主任研究員 高瀬英悟

はじめに

沿岸技術研究センターは、2009年に韓国海洋科学技術院(KORDI)と沿岸技術の共同研究の実施・学術情報の交換等に関する研究交流協定を締結し、2009年より毎年、日韓交互にワークショップを開催し、2012年11月7日(水)、第4回ワークショップを我が国で開催しました。

また、今回のワークショップに合わせて、我が国の関係者と韓国の代表団は、東北太平洋沖地震による震災からの復興に取り組む地域(相馬港、女川港、塩釜港)を視察しました。

有益な情報交換がなされた ワークショップ

ワークショップは、韓国の代表者および来賓としてお越しいただいた国土交通省港湾局・山縣局長よりご挨拶をいただき、当センターの関田理事長によ

復興に取り組む東北 沿岸域の現場視察

初日は相馬港において、津波で倒壊した沖防波堤の被災状況を海上から確認するとともに、沖防波堤の復旧に使用するケーソンの製作現場や護岸の復旧工事現場を間近で見ました。2日目は、まず女川港に行き、高台に位置する町立病院から町全体を見渡し、その後、

「日本における海洋再生可能エネルギー開発の展望」と題する基調講演から始まりました。(表1)

この基調講演では、我が国における海洋再生可能エネルギーに関する研究開発の動向と、港湾エリアにおける取り組みの重要性などが述べられました。

その後、「沿岸防災」、「沿岸管理」、「波浪解析」、「技術開発・普及」の4つのテーマに分けて、日韓それぞれの研究者15名より、自国で取り組んでいる研究内容や成果の発表が行われました。

「沿岸防災」に関しては、津波対策や防波堤による効果に関する研究成果が発表され、「沿岸管理」に関しては、別府港海岸における里浜づくりと韓国東海岸の浸食状況等について発表が行われました。

また、「波浪解析」に関しては、第三世代のCOMEINSの紹介と韓国の沿岸災害と低減対策等について発表され、「技術開発・普及」に関しては、洋上風力発電の現状と韓国のサクシヨンパイルの基礎に関する発表が行われました。なお、各テーマにおける研究者の発表の後に設けた質疑応答の時間では、たいへん活発な意見交換が行われ、ワークショップは成功裡に終了しました。(写真1)

第4回 日韓沿岸防災技術研究ワークショップ
日時 2012年11月7日(水) 10:00-17:40
場所 KFCホール (〒130-0015 東京都墨田区横綱1-6-1)
プログラム (敬称略)

セッション	コーディネーター	発表
沿岸防災(1) 11:00~12:00	CDIT 審議役 八尋明彦	港湾内に立地する企業の事業継続の観点からみた津波対策 CDIT 研究主幹 廣松智樹 最大クラスの津波に対する防波堤の津波減災効果について CDIT 調査役 金正植 高潮浸水被害予測システムの適用と高潮災害防止施設の開発研究 KIOST 特性化研究室 沈載高
= 昼食 =		
沿岸防災(2) 13:00~14:00	KIOST 名譽研究委員 安熙道	東日本大震災を踏まえたGPS 波浪観測情報の活用について CDIT 調査役 菊地洋二 東北地方太平洋沖地震時における防波堤による浸水低減効果検討 PARI アジアン・太平洋沿岸防災研究センター 研究官 藤原善 数値モデリングを活用した津波防災対策 KIOST 研修研究員 河巻敏 地域住民が参画した別府港海岸における里浜づくり (北浜地区1、上ヶ浜地区)
沿岸管理 14:00~15:00	PARI 海洋情報研究 領域長 河合弘泰	CDIT 主任研究員 菅井剛 消波ブロック被覆堤ブロック下部の高麗量の推定について 国土交通省 横浜港湾空港技術調査事務所 鈴木高二朗 関東地方整備局 韓国東海岸の浸食現況 KIOST 東海研究所長 朴贊弘
= コーヒーブレイク =		
波浪解析 15:30~16:30	KIOST 責任研究員 李光守	第三世代COMEINSの開発 CDIT 調査役 岡田弘三 WOPHASが捉えた日本沿岸の波浪特性 PARI 海洋情報研究領域長 河合弘泰 最近韓国で発生した沿岸災害と今後の低減対策 KIOST 先任研究員 吳相 沿岸域および洋上の風力発電の実用化をめざした最近の活動状況 CDIT 客員研究員 永井紀彦
技術開発・普及 16:30~17:30	CDIT 沿岸防災 研究所長 高山知司	KIOST 責任研究員 朴佑善 韓国における海上風力発電の現況 KIOST 責任研究員 李光守
閉会 17:30~	閉会挨拶 沿岸技術研究センター	沿岸防災研究所長 高山知司

表1 ワークショッププログラム

まとめ

今回ご講演いただいた皆さま、現場視察にお付き合いただいた東北地方整備局及び宮城県石巻港湾事務所の皆さま、本当にありがとうございました。本紙面を借りて改めて心より感謝申し上げます。

石巻港に移動して高台の日和山公園から付近一帯を眺望した後、雲雀野地区に行き岸壁の復旧状況を確認しました。視察団は、時間の許す限り現地に滞在し、現地の説明者に積極的に質問するとともに、震災前の写真とあまりにも変貌してしまった現況を見て、改めて想像を絶する被災状況に胸が締め付けられる想いと大きなショックを受け、被災地の早期の復興を願いました。

今回の現場視察を通して、東北太平洋沖地震によって生じた甚大な被害の大きさと、技術的な課題を早急に解決することの重要性について、日韓双方ともこれまで以上に理解を深めました。